

## 平成 30 年度 食品の安全性に関する有害化学物質及び 有害微生物のサーベイランス・モニタリング年次計画の実施状況

### 化学物質サーベイランス

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
重金属等	ヒ素	コメの安全性を向上させる措置を検討する際の基礎データを得るため、集出荷段階のコメ(玄米、同玄米を削って得られる精米)のヒ素含有実態を詳細に把握。	玄米 精米 (上記玄米をとう精したもの)	○	○	
	鉛	我が国の実態をコーデックス委員会における最大基準値の更なる見直しの議論に反映させるため、国産の食用油脂及びスプレッド類・ショートニング中の鉛の含有実態を予備的に把握。	食用植物油脂 牛脂 精製ラード マーガリン ファットスプレッド ショートニング	○	○	鉛と同時分析が可能な総ヒ素及びカドミウムについても含有実態を予備的に把握。
	カドミウム	養殖水産動物用飼料について、基準値の設定の必要性を検討するため、含有実態を把握。	養殖水産動物用飼料	○	○	

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
ダイオキシン類	ダイオキシン類 (コプラナーPCBを 含む)	「ダイオキシン対策推進基本指針」(平成11年 ダイオキシン対策関係閣僚会議決定)に基づ き、農畜水産物中のダイオキシン類濃度の含 有実態を把握。	葉茎菜類	○	○	
			鶏肉 牛乳 鶏卵	○	○	
			マサバ カンパチ(養殖)	○	○	
		「ダイオキシン対策推進基本指針」に基づき、 畜水産物のダイオキシン類残留の主要な経 路である飼料について、含有実態を把握。	魚油 魚粉	○	○	

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
かび毒	タイプ B トリコテセン類 (デオキシニバレノール(DON)、ニバレノール(NIV)、3-アセチルDON、15-アセチルDON、4-アセチルNIV、DON-3-グルコシド)	国産麦類について、現行の汚染低減指針の有効性を検証するとともに、DON、NIVのアセチル体や配糖体(類縁体)を含めたさらなる汚染低減対策の必要性を検討するため、DON、NIVとそれらの類縁体の含有実態及び年次変動を把握。 濃度が通常の範囲よりも高い場合には、原因究明等を実施。	小麦 大麦 ライ麦	○	○	
	タイプ A トリコテセン類 (T-2トキシン、HT-2トキシン、ジアセトキシルペノール)	国産麦類について、安全性を向上させるための措置の必要性を検討するため、全国的な含有実態及び年次変動を把握。 濃度が通常の範囲よりも高い場合には、原因究明等を実施。		○	○	
	ゼアラレノン	国産麦類について、安全性を向上させるための措置の必要性を検討するため、全国的な含有実態及び年次変動を把握。 濃度が通常の範囲よりも高い場合には、原因究明等を実施。		○	○	
	パツリン	パツリン産生菌は、りんご以外の果実にも感染し、パツリンを産生。 りんご以外の果実においては汚染実態が不明なことから、パツリンの汚染低減対策の必要性を検討するため、りんご以外の国産原料の果汁飲料を対象に含有実態を把握。	果汁飲料 (りんご果汁飲料除く。)	○	○	なし果汁を対象に調査を実施

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
かび 毒	オクラトキシン A	飼料用麦類について、基準値の設定の必要性を検討するため、含有実態を把握。	飼料用大麦 飼料用小麦	○	○	
	麦角アルカロイド類	<p>麦角アルカロイド類について、麦角菌に汚染された穀粒の目視による混入率の管理から、化学分析による毒素濃度の管理への移行が国際的に検討されていることから、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国産麦類の安全性を向上させるための措置の必要性を検討するため、穀粒について、全国的な含有実態を把握。</li> <li>・目視では汚染を判別することができない麦類加工品についても、安全性を向上させるための措置の必要性を検討するため、予備的に国内に流通する穀類加工品の含有実態を把握。</li> </ul>	小麦 大麦 ライ麦	○	○	
			小麦粉	○	○	

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
自然毒	ピロリジジナルカ ロイド類	農林水産省はこれまでフキ、はちみつ、緑茶について含有実態を把握してきたところであるが、この他のピロリジジナルカロイド類を含む可能性がある植物及びその加工品について、安全性を向上させるための措置の必要性を検討するため、予備的に含有実態を把握。	ツワブキ モリアザミ ムラサキバレンギク スイゼンジナ その他  上記植物の簡易な加工品も対象とする。	○	○	ツワブキを対象に調査を実施
	トロパンアルカロイド 類	チャノキの新芽を摘み加工したものである緑茶が、適切に雑草管理がなされており安全であることを確認するため、予備的に含有実態を把握。	緑茶	—	○	チャノキとハーブの混合物から、トロパンアルカロイド類がEUで検出されたという情報を入手したため、日本人の摂取量が多い緑茶について汚染実態を把握。
	シアン化合物 (青酸配糖体、遊離 シアン等)	天然にシアン化合物を含む農産物を食べる際に適切な加工・調理が必要かどうか、また、消費者への注意喚起が必要かどうかを検討するため、予備的に含有実態を把握。	核果類 キャッサバ タケノコ ソルガム	○	○	びわ加工品を対象に調査を実施

I カテゴリー 危害要因	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
食品製造由来汚染物質	アクリルアミド	安全性を向上させるための措置の効果を確認し、さらなる措置を講じる必要があるかどうか検討するため、国内に流通する主要な加工食品中の含有実態を把握。	ポテトスナック ポテトフライ ビスケット類 米菓 乳幼児用穀類加工品 レギュラーコーヒー インスタントコーヒー 麦茶	○	○	
	ヒスタミン	低減対策の導入によるヒスタミン及びチラミンの低減効果を検証するため、市販されているしょうゆ中の含有実態を把握。	しょうゆ	—	○	業界団体が、ヒスタミンの低減対策を策定し、低減対策の普及が進んだとの情報が得られたことから、低減技術の効果を検証するため、市販されているしょうゆ中のヒスタミン及びチラミン濃度の調査を実施。

## 化学物質モニタリング

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
重金属等	ヒ素	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握。 結果は、飼料の安全性を向上させるための措置の見直しに活用。	配合飼料 魚粉 肉粉 肉骨粉 乾牧草等	○	○	
	カドミウム			○	○	
	鉛			○	○	
	総水銀			○	○	
かび毒	アフラトキシン B <sub>1</sub>	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握。 結果は、飼料の安全性を向上させるための措置の見直しに活用。	配合飼料 とうもろこし	○	○	
	デオキシニバレノール		配合飼料 飼料用穀類等	○	○	
	ゼアラレノン			○	○	

## 化学物質その他の調査

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
かび毒	ニバレノール-3-グルコシド	国産麦類において、ニバレノールの配糖体であるニバレノール-3-グルコシドの含有実態を把握(平成30年度は、分析に必要な標準試薬を作成)。	-	○	○	
食品製造由来 汚染物質	アクリルアミド	米菓中のアクリルアミド低減に有効と考えられる低減技術を検証するため、事業者と連携して、技術の導入前後でアクリルアミド濃度がどの程度低減するかを把握。	米菓	○	—	平成30年度に予定していた調査について、事業者の協力を得ながら令和元年度に実施。

## 微生物サーベイランス

危害要因	調査の趣旨	具体的な調査対象品目	計画	実績	備考
サルモネラ	スプラウトの安全性を向上させるさらなる措置の必要性を検討するため、 ・スプラウトに関する有害微生物の汚染実態を把握。 ・生産施設における「スプラウト生産における衛生管理指針」(平成27年9月4日付け消安第3188号農林水産省消費・安全局長通知)に基づく衛生管理の取組状況を把握。 ・「スプラウト生産における衛生管理指針」の効果を検証。	出荷前のスプラウト原料種子等 施設の環境試料 (施設・設備の拭き取り試料等)	○	○	
腸管出血性大腸菌					
有害微生物	調査事業で得られた菌株及びウイルス遺伝子を解析し、性状を把握。	調査事業で得られた菌株及びウイルス遺伝子	○	○	

## 微生物その他の調査

危害要因	調査の趣旨	具体的な調査対象品目	計画	実績	備考
カンピロバクター	生産加工会社と連携し、農場の肉用鶏群のカンピロバクター及びサルモネラ低減対策(飲用水の消毒、空舎時の管理等)の有効性を検討。	新鮮盲腸便環境試料(飲料水、鶏舎拭き取り等)	○	○	平成 29 年度に食鳥処理場で調査を実施したところ、リステリア・モノサイトジェネスが検出されたことから、疫学的な情報を得るべく検出鶏群が飼養されていた農場・鶏舎でのリステリア・モノサイトジェネスの調査をあわせて実施。
サルモネラ					
サルモネラ	採卵鶏農場と連携し、定期的に鶏群のサルモネラ保有状況及び農場の飼養衛生管理の状況を把握。採卵鶏群のサルモネラ感染に影響する要因を解明。	新鮮盲腸便又は新鮮糞便環境試料(鶏舎塵埃)	○	—	同年度に実施した肉用鶏を対象とした調査(上段参照)をより充実させて実施。
ノロウイルス	海域情報(海水温、降水量等)を利用した二枚貝のノロウイルス汚染低減対策を検討するため、カキ中のノロウイルス汚染状況を把握。	カキ	○	○	
ノロウイルス	検討中のカキ中のノロウイルス試験法を用いて、信頼性の高いデータを得る際に必要な操作上の留意点を把握。	カキ	○	○	